

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-900	A-133	22-008 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Habitual Alcohol Intake and Risk of Atrial Fibrillation in Young Adults in Korea 韓国若年者における習慣的なアルコール飲酒と心房細動の関連		
<b>執筆者</b>		
Han M, Lee SR, Choi EK, Choi J, Chung J, Park SH, Lee H, Ahn HJ, Kwon S, Lee SW, Han KD, Oh S, Lip GYH.		
<b>掲載誌</b>		
JAMA Netw Open. 2022 Sep 1;5(9):e2229799. doi: 10.1001/jamanetworkopen.2022.29799.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
アルコール飲酒、心房細動、コホート研究、若年成人		36053532
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的:</b> ガイドラインでは、早期発症の心房細動の予後不良を考慮し、ライフスタイル要因を含むすべての危険因子を積極的に管理することが推奨されている。これまで 20 歳から 39 歳の若年成人、特に多量飲酒者における累積アルコール摂取量と心房細動のリスクとの関連はあまり報告されていない。そこで本研究では、若年成人における心房細動発症とアルコール摂取の関連を検討する。</p> <p><b>方法:</b> 国民健康保険サービスのデータベースを用いて、2009 年から 2012 年にかけて年 4 回の連続健康診断を受けた心房細動の既往のない 20 歳から 39 歳の成人を対象に、全国規模の人口ベースコホート研究を実施した。4 年間の累積飲酒負荷は、中等度以上の飲酒（アルコール量週 105g 以上）を毎年 1 点として算出しました。さらに、非飲酒、軽度（週 105g 未満）、中等度（週 105～210g）、大量（週 210g 以上）飲酒にそれぞれ 0、1、2、3 点を割り当てて、半定量的累積得点を算出した。データは 2021 年 5 月から 6 月にかけて分析した。曝露は 4 年間のアルコール摂取量とし、主要アウトカムは、追跡期間中の心房細動の発生とした。</p> <p><b>結果:</b> 最終解析には、1,537,836 人（平均 [SD] 年齢: 29.5 [4.1] 歳, 男性 1,100,099 人 [71.5%]）が組み入れられた。中等度から大量飲酒で層別したアルコール摂取の 4 年間の累積負荷は、889,382 人（57.8%）が負担 0 群、203,374 人（13.2%）が負担 1 群、148,087 人が負担 2 群、144,023 人が負担 3 群、152,970 人が負担 4 群に属していた。中央値（IQR）6.13 年（4.59-6.48）の追跡期間中に、3,066 人（1000 人年当たり 0.36 人）の心房細動が新規に診断された。4 年間中等度以上の飲酒を続けた累積負荷 4 点の参加者は、4 年間飲酒なしから中等度の飲酒であった 0 点の参加者と比較して、心房細動のリスクが 25%高かった（調整 HR=1.25 ; 95% CI, 1.12-1.40）。半定量的解析では、連続 4 年間大量飲酒を続けた参加者は、4 年間非飲酒であった対象者と比較して、心房細動リスクが 47%高かった（調整 HR=1.47;95%CI 1.18-1.83）。</p> <p><b>結論:</b> 20 歳から 39 歳の若年成人においても、持続的な中等度から重度の飲酒負荷は心房細動のリスクを増加させる可能性がある。</p>		